

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成22年3月4日(2010.3.4)

【公開番号】特開2007-197443(P2007-197443A)

【公開日】平成19年8月9日(2007.8.9)

【年通号数】公開・登録公報2007-030

【出願番号】特願2007-13344(P2007-13344)

【国際特許分類】

C 0 7 C 1/207 (2006.01)

C 0 7 C 11/02 (2006.01)

C 0 7 C 7/10 (2006.01)

C 0 7 C 7/04 (2006.01)

C 0 7 C 67/313 (2006.01)

C 0 7 C 69/593 (2006.01)

C 0 7 C 67/58 (2006.01)

C 0 7 B 61/00 (2006.01)

【F I】

C 0 7 C 1/207

C 0 7 C 11/02

C 0 7 C 7/10

C 0 7 C 7/04

C 0 7 C 67/313

C 0 7 C 69/593

C 0 7 C 67/58

C 0 7 B 61/00 3 0 0

【手続補正書】

【提出日】平成22年1月20日(2010.1.20)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 7 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 7 9】

全ての場合において、オレインヒマワリ油およびオレインナタネ油に由来する脂肪鎖の混合物中に存在する飽和脂肪酸エステルは、メタセシス反応に反応性ではなく、操作終了時に回収される。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 9 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 9 2】

R^1 、 R^2 、 R^3 、 R^4 、 R^5 および R^6 はまた、1以上の官能基を有するヒドロカルビル基を示してもよく、該官能基は、 $-CO_2R$ 、 $-C(O)R$ 、 $-OR$ 、 $-C(O)NR^1R^2$ 、 $-C(O)N(R)NR^1R^2$ 、 $-NRR^1$ 、 $-SR$ 、 $-S(O)R$ 、 $-S(O)_2R$ 、 $-SO_3R$ 、 $-CN$ 、 $-N(R)P(O)R^1R^2$ 、 $-PRR^1$ 、 $-P(O)R^1R^2$ 、 $-P(OR)(OR^1)$ 、 $-P(O)(OR)(OR^1)$ (式中、 R 、 R^1 、 R^2 は、同一であっても異なってもよく、それぞれ、水素または1～30個の炭素原子を含有

するヒドロカルビル基を示す) から選択される。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0104

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0104】

ここで、

- ・ a 、 b 、 c 、 d は、整数であり、 a および b は、0、1 または 2 に等しく、 c および d は、0、1、2、3 または 4 に等しく；

- ・ X_1 および X_2 は、同一であっても異なってもよく、それぞれ、単座または多座キレート配位子（帯電または非帯電）を示し；挙げられてよい例は、ハリド、スルファート、カルボナート、カルボキシラート、アルコラート、フェネート、アミド、トシラート、ヘキサフルオロホスホナート、テトラフルオロボラート、ビスートリフリルアミド (bis-triflyamide)、テトラフェニルボラートおよびその誘導体であり； X_1 または X_2 は、 L_1 または L_2 または「Cカルベン」と結合して、ルテニウム上に二座（またはキレート）配位子を形成してもよく；そして、

- ・ L_1 および L_2 は、同一であっても異なってもよく、ホスフィン、ホスフィット、ホスホニット、ホスフィニット、アルシン、スチルビン、オレフィンまたは芳香族、カルボニル化合物、エーテル、アルコール、アミン、ピリジンまたはその誘導体、イミン、チオエステルまたはヘテロ環カルベン等の電子供与配位子であり、これは、例えば、図2の一般式の1つを有する；ここで、 R_1 、 R_2 、 R_3 、 R_4 および R_5 は、同一であっても異なってもよく、それぞれ、水素、または1～12個の炭素原子を含有する飽和または不飽和または芳香性の脂肪族炭化水素基を示す。